

第44号
広報委員会発行

関西大学通信

大阪府吹田市山手町3丁目
関西大学広報委員会

昭和49年度 入学試験実施にあたって



古後 楠徳

本学志望を心から歓迎

厳正な受験態度を

受験生諸君へ

に本学を志望して入学を志し、受験のために来学されたことは、春たる本学との正式の出会いです。

意味で、心から歓迎の意を表した。いまもなお本学は、伝統、実績、陣容、規模、学風その他で

優れた特質をそなえた六つの学部をもつこの、全国有数の一大総合大学である。

このような社会単位も、すべからず新人の参加なくしては退化は避け難いといわれるとおり、優れた大学も、新入生の双肩にその将来をかけることも過言では

あるまい。

大学は学問をするところである。

た諸君に対し、あるレベル以上の資格をそなえているか否かをみる資格試験でなく、人数を定員内に制限する選抜試験の入学形式を取らざるを得ないことは、本学に限らぬことでもあり、また有限な施設、陣容の制約上やむを得ぬとはいえ、実に残念なことである。



彼は「優秀」という折紙つきで、見事試験を通過した。彼はいったんこれからすぐに父に知らせに行つてやろうかとさえ考えた。だが、それは彼の自尊心が許さなかつた。彼はいまバシユリエ（大学入学資格者）になった。だがそんなものは何になる／＼むつかしいのはこれからだ。

「せせせせ」

おもな内容

1面 昭和49年度入学試験実施にあたって 入学試験志願者数 学生部短信 千里眼
2・3面 私の学生時代
4面 インプレと資源問題
せせせせ 編集後記

入学試験志願者数

学部	部	49年度	48年度	増減数
法学部	一部	8,257	7,553	704
	二部	1,265	1,072	193
文学部	一部	10,508	8,232	2,276
	二部	738	731	7
経済学部	一部	7,449	5,730	1,719
	二部	1,657	1,364	293
商学部	一部	14,439	8,895	5,544
	二部	793	582	211
社会学部	一部	9,798	12,819	△ 3,021
	二部	507	525	△ 18
工学部	一部	13,397	11,698	1,699
	二部	63,848	54,927	8,921
全体	一部	4,960	4,274	686
	二部	68,808	59,201	9,607

(注)△は減を表す。1月23日現在

学生部短信

いま行われている入学試験の結果は15・16両日にわたって発表されるが、学生部(厚生課・第二学生課)では新入生をうけいれる下宿の開拓と確保に大わらわである。

例年、新入生のうち、遠隔地のため下宿を探さねばならぬものは千名を(すも)とみられるが、そのうち八百名ほどが学生部の斡旋で落ちつくことになる。厚生課・第二学生課では、連日、役員、履代、食事代等、昨年より若干の値上がりは防げないものとみられ、たうえ空室の確保につとめておる。

最後の一秒まで有効に

以上、入試は学力試験の形をとるが、その規程は高校の教科内容を消化しているかどうか、というところである。しかし考をみれば、完全消化というよりは実地にはあり得ぬといえる。重慶の慢性的な問題はけりのはずである。むしろ、素の地道な勉学の結果を発揮できる絶好のチャンスと心得て、勇躍、全力を投入し、最後の一秒まで有効に使ってほしい。

なご身は障害者の諸君にとつても、そのことのために不利にならぬよう配慮されている。

入試は一発勝負だといわれている。高校入試ではなるほどその感じが強いけれど、じつは大学入試では一年に何発勝負もできるし、本学だけでも二承知のつもり、いくつかの学部には併願可能である。まずは気を大きくもって試験場に臨んでほしい。ただし、試験実施中は他の迷惑にならないよう、また、疑念を抱く行動のないよう、厳正な態度を堅持してほしい。

最後に念のため、事務的な注意事項をまとめておく。

一、各種指示は学内掲示板で承知された。

二、疑問、不案内のための質問は選考係の教職員にされた。

三、試験場を離れるときは、受験票を身につけておかれた。

四、合格発表は、社、法、商は二月十五日(金)、工、文、経は二月十六日(土)いずれも午後一時、場所は千里山学生会舎各学部、二部は天六学舎。

当日は受験票を持参し、合格者は各学部事務室で、合格証書と手続書類用紙を受領された。

地方試験受験者には試験場で別々に指示する。

当日不参の合格者には書類を送付する。

消化症ならいざしらず、少々のこととは心配は不要というもの。やがて試験場であたを開ければわかるとおり、こころに留意をつくような問題はなく、願当に普通の勉強をしてきた人には、出来て当然の問題ばかりのはずである。むしろ、五百五十名で、通学不可能な地域に居住する新入生を対象として募集されるので、遅れず申込手続をすることが必要。

これら新入生に対する下宿の斡旋や学生寮の入寮募集については、合格者に大学から送られる書類のなかの「入学後の住居について」を参照してほしい。

この新入生の下宿斡旋業務とこの開拓、確保のため、在学生に對する下宿斡旋は1月14日から4月13日まで中止される。

付する。

五、入試実施日程

月日	学部	試験科目
一月一日(金)	社	一、二部
二月一日(土)	法	一、二部
三月一日(日)	商	一、二部
三月三日(火)	商	一、二部
三月四日(水)	工	一、二部
三月五日(木)	文	一、二部
三月六日(金)	経	一、二部

これでは、合格の喜びを自らの力で現実のものとするべく、二部を祈る。

▼昭和四十九年もはや一月がすぎ去った。そして、新聞を眺んでも、テレビを見ても、同じことがくり返されているような気がする。

▼石油危機だとか、紙不足だとか、それに伴う諸物価格上がりムードだとか、また節約癖がけとか、当面のキズをうわべだけつづらつて、急場をしのぐとする世相はどうもやりきれない。

▼外国に目を向けるときの態度も、これと無縁ではない。一例として、社会福祉制度がある。すぐ北歐を見習えと識者はいう。ところがあるスウェーデン人は月収の四〇～六〇%が税金だといった。だから、この人の計算によると、とられたモノをとりもたずには、最低六十八才まで生きなければ、死んでも死にきれないことになる。

▼ストックホルムの中程度のレストランで、食事を終えた母子づれが、食べ残したフライドポテトを、用意していたらしい紙袋に入れて、そっとしましこむのを見た。税金の話を聞いたあとなので、いさか考えさせられた。

▼また、アメリカあたりへ逃げ出そうとする大企業を引き止め策に、政府は頭を痛めているのもワシではないらしい。

▼諸外国のいろいろなニュースを参考にするのは、もちろん結構なことだ。たまたまそれを過激にするまえに、われわれ自身の現実を、よく見つめるだけの精神的ゆとりがほしい。

▼そして同時に、われわれの体質のなかで、変えるべき部分は、徐々にでも変えていくのが望ましいのではないだろうか。

